工場の窓より

葉山嘉樹

青空文庫

一

兄弟よ！　もう眼を覚さなければならない。午前五時だ。起きて工場へ働きに行かねばならぬ。さうしないと人類は物資の欠乏に苦しむから。おとなしくわれ等は待たう。今までも待つたやうに。軈(やが)て資本家達も良心を眼覚すであらうから。

また兄弟よ。われ等も心の眼をもつとはつきり覚さうではないか。理想の光が天空一杯に輝いてゐるではないか、「愛」の波が悠久な姿で静かに工場の裾を洗つてゐるではないか。自然がわれ等に啓示する神の思想や愛を、労働のあらゆる刹那、十五分の休みに、冷たい水のやうに心地よくわれ等は飲み込むことが能(で)きる。

兄弟よ！　労働は幹なる哉。われ等は工場で死の危険と面接し、家庭に帰つて貧窮と握手をする。兄弟よ。これ等のことは苦しいことである。けれどもこの苦しみの中に人類の進む道が残されてゐる。何故つて兄弟よ。貧窮と苦痛とのある処にだけ虔譲と愛とが残されてあるからだ。

兄弟よ。われ等は近々僅な日子の中に多くの負傷者と一人の死者とを、われ等の兄弟の中から出した。彼等の運命は思ふも哀れな限りである。足を折つた一人の兄弟は治癒が長びいて、一ヶ月半経つた。工務課の人たちの意志によつて彼は未(いま)だ動かせぬ足を持つて下宿へ帰された。兄弟よ。われ等は算盤玉ですつかり弾き出されるのだ。ある技手は「あいつは酒を飲んで来て、倒れるに極つてゐるセメント袋の山の下に、幾度も注意されたに拘らず休んでゐやがつたんだ」と云つた。さう云へば会社は公傷の取扱にしないで済むからだ。兄弟よ、われ等を同胞であると思つて呉れる人間が、たつた一人でいいから工務課に欲しいではないか。そこには人間の代りに製図機械や、ペンや、算盤玉などが、洋服を着て毎日詰めかけて来るのだ。

兄弟よ。製図機械や、算盤玉は整つてゐて綺麗だが、われ等は汚くつて埃まみれだ。

兄弟よ。五月の十九日、兄弟の一人が熱灰中に墜ちて大火傷をした揚句、病院で遂に死んでしまつた。兄弟よ。他の事では無いのだ。われ等は皆悲しみと怖れとに囚はれた。われ等も何時、どんなことで死なぬとも限らぬのだ。それがわれわれの運命なんだ。

火傷(やけど)をした兄弟が臨終の苦悶の時、「何分後の処をお願ひ申します」と云つた。あの時の顔は自分の胸に固く焼きつけられてゐる。兄弟はクリストが十字架についた時のやうに、柔和な顔をしてゐた。誰を呪ひも恨みもせずに、天命だと諦めて逝つたのだ。一人の妻と四人の子供を残して。

兄弟よ。彼が臨終にわれ等に頼んで行つた遺族は、工場法の規定による彼の日給の百七十日分と、外に約百円、合せて四百円を受取れることになつた。遺族のために四百円の金はどんな意味を持つことであらう。

兄弟よ。十字架を負うて逝ける兄弟と、その遺族のために、われ等の味方になつて奮闘した、一人の算盤玉は、工務課から排斥せられ、主脳者によつて首が、そのあるべき処以外に置かれようとしてゐるのだ。

兄弟よ、われ等の肉と血潮の上に、脂切つた肉体と、それを包む華美な衣服と、荘大なる邸宅を載せて、悦楽を貪る資本家に反抗し

てはならぬ。われ等は絶対に無抵抗主義であらねばならぬ。若し反抗を試みるならば、首の周りに鉄の柵を結ひ廻してからにするがいゝ。又は、われ等及その家族の胃の腑と腸とを切開除去した後にするがいい。

兄弟よ。おとなしく暴風雨の過去るのを待たう。希望と憧憬とを以て、軈て来る理想の暖かい光を待たう。

二

陰鬱な気持ちである。兄弟たちは傍目を振らずに働いてゐる。どこともなく陰鬱な顔付きをして。

陰鬱になる筈である。一体われ等は何を笑つたらいゝか。切めて自分の運命の儚さを嘲笑ふ位なものである。

一生懸命糞真面目に働いて、四十円位月に貰つて、女房と三人の子供とを養はねばならぬ。子供に活動を強請まれても、見に連れて行く代りに拳骨を一つ食はせるより外に仕方がない。女房は毎日のお菜で困難を極める。いやだいやだ、全く生きるのが厭になる。生きるのは厭になつても死ぬまでの決心はつかない。工場で負傷して死んでさへ遺族は路頭に迷はねばならぬ。況してたゞで死んだものならそれこそ鐚一文にだつてなりやしない。俺たちがかうして苦しんで行くのは仕方がないと諦めもせうが、子供はどうだ。「十歳になるのを待ち兼ねて」職工だ。矢つ張り俺と同じ厭な苦しい、暗い運命を脊負はさにやならぬ。どんな無理でも圧迫でも黙つて堪へて床の下へ吹き込まれた草花の種見たいに、碌に芽も出さず、伸びもせずに、痩細つて枯れてしまふんだ。成程われわれは立派な生産者だ。立派な生産者には違ひあるまいが、生きて行く先の無いことも間違ひなしだ。起きて寝るまでは工場で働き続け、寝て起きるまでは夢も見やしない。世の中にはどんなことが起つてゐるか、どんな風が吹いてゐるか、そんなことは全で分らない。小学校の三年まで行つて職工になつたが、なりたてのほやほやは自分の名位書けた。今はどうだ。駄目だ、駄目だ。鉛筆を掴んだつて掴んだやうに感じない。もう俺の手が持つたと感じるのはハンマーの柄か、デリック位なもんだらう。絶望だ！　何もかも駄目だ！　稀の公休日は嬉しくも何ともない。俺たちに金を呉れずに休みを呉れたつて何になる。女房に甲斐性なしと罵られる位が関の山だ。活動どころかと子供の頭を張り飛ばすのもいゝ気持ちぢやない。あゝいやだ、いやだ。

いつそのこと女房も子も放つといて、勘定を貰ふとすぐその足で二三日遊び続けてやらうか、などと考へることさへある。さうする仲間がある。けれどもそれも俺には出来ない。俺に出来ることは働くことと、飯を喰ふことと、寝ることだけだ。その飯だつて……。

元気のある若い連中はそれでもどうにか為ようと焦つてゐる。それがどうにかなりさうだとすぐに首になつてしまふ。組合などと云ふことは夢だ、夢だ。

労働者ほど詰らない者は、世界中どこを訊ねても恐らくあるまい。一番苦いのが監獄の生活で、その次が労働者で、その次に乞食だらう。尤も此順序は例外なしにさうであるとは勿論云へないが。

労働者は大抵正直な善良な人間に依つて成り立つてゐる。正直であり善良であるために、生活が全で滅茶々々に資本家のために踏み躙られる。と云ふことは、決して労働組合主義者や、社会主義者や宗教家のみが憂ふることではない。

国家さへも労働者の境遇を改善することに留意し初めたのである。

誰でもが平等に幸福が無ければならぬと云ふことは、誰でもが知つてゐ、欲してゐることである。たゞそれを実現することが非常に困難である。実際問題に打つ衝るとその衝に当るものは、幸福の代りに惨澹たる不幸を脊負込むのである。

「誰もが幸福であるやうに俺が努力をすると、第一此俺が不幸にならねばならぬ」のである。処が大体人間は神の国を求める位に幸福を欲するのであるから、自分自身を不幸にすることを避ける。

然し、他の人が不仕合な生活をしてゐることは、進んで犠牲になると云ふ覚悟のない人にも、決して快よい感じは与へないのである。そこで「どうせ今の世の中は利己主義が勝つんで、俺が社会改良運動に携つて目玉を剥いて見た処で何にもなりやしないんだ。人類の多数は矢つ張り不幸なんだ。詰り俺は、俺は詰りその、俺さへ良けりやそれでいいんだ」と、考へたくなるのである。

人は分れて行く。各の道を求めて果しのない迷路へと離れ離れに進んで行くのである。

三

兄弟よ。梅雨らしい空が、陰鬱にわれ等の頭を押しつけてゐる。

われ等は暗い空と、資本主義の大磐石の下に永久に喘がねばならぬであらうか。われ等はどのやうに焦つても、どのやうに駆けて見ても此地上以外には住めないと同じやうに、あらゆる社会悪の圧迫以外に首を擡げることは能きないだらうか。

兄弟よ。沢庵漬は上に加はる圧迫が大きければ大きいだけ、お互に密着き合ひ緊めつけ合ふのである。が、労働者は沢庵であるか。

兄弟よ。われ等の運命は沢庵である。すつかり食ひ物にされるのである。資本家はいろんな贅沢な食ひ物に飽いては、「これに限る」と云つて、われ等沢庵を食ふのである。彼等の食ひ物は沢庵に初まつて沢庵に終るのである。そして彼等の偉大なる顎と、臓腑とは今の処食ひ過ぎの為病気を起しさうな模様は無いのである。

兄弟よ。上からの圧迫が重いとお互の間の関係は、恐ろしく窮屈になる。互に足を踏み合ふ。肩と肩とが打つ衝り合ふ。けれどもそれは沢庵の知つたことでは無いのである。重しがさうさせるのである。窮屈だからと云つてお互に喧嘩してはならない。世界は樽の中の、われ等萎びた大根と、糟と、それだけつ限りのものではないのである。

資本家及び資本家の傀儡たる重し共は、無数に並んだ沢庵桶の側で、われ等の見る世界とは似てもつかぬ世界を見てゐるのである。沢庵より上る利益の計算のために必要な算盤や、コムパス達は、今日の土曜と明日の日曜とを利用して、魚釣りに出かけるのである。

彼等にとつては、われ等はたゞお互に押つけ合つて汁を出してさへゐればいゝのであつて、われ等が生き生きした清新な大根であることは怖るべきことなのである。

けれども兄弟よ。われ等は沢庵漬の諷刺から、人間へ帰らう。

兄弟よ。われ等も人間である。人間である以上良心を持つてゐる。われ等の良心は幸にして膏薬を張つてないから、センシブルである。だから、兄弟よ。われ等は「人類の理想」へ向つて進み得るのである。良心を、余りに淫逸に耽溺させ、アルコールに麻痺させた資本家共の瘡蓋だらけの良心には、「人類の理想」や「地上に於ける民

衆の結合」や、「神の意志の体現」などは、到底分りつこはないのである。若しそれが彼等に分るならば、彼等は自己の存在が否定さるべきものである、と云ふことも分る筈である。

兄弟よ。地上に、「愛に依る民衆の結合」を齎さねばならぬ使命は、われ等労働者にのみ与へられたる特権であり、且は重い責任である。われ等は悪魔の誘惑にかゝつてはならぬ。どこまでもイワンの馬鹿で押通さねばならぬ。

四

「自分さへ良ければ他は蹂躙つても構はない」と云ふ考へは、他の其思想と衝突する。皆が他人を蹴倒して自分の利を追ふことになれば、多分皆の人が傷ついて倒れるであらう。又倒れつゝあるのである。

人類は「愛」に依つて美しい結合をしないで、「利」によつて緊縛されてゐる。

兄弟よ。心に何の蟠りなく、利害の関係なく、人と人とが語り合ふ時、どんなにそれは柔和な、清い、平和な関係であらう。

二人で或仕事を初めて、一人は出資者で一人は実際に当るとして仕事の利益が思はしくない時、出資者は日歩三銭の利を八釜しく云ふとすると、その二人は時にふれ折につけて共に酒を飲み、遊楽を共にしてゐても「日歩三銭」の処で行き詰つてしまふのである。

そして仕事に当つてゐる者は苦し紛れに、局外者に泥を吐いて救助を求めることになるのである。

兄弟よ。利を追つてはならぬ。利を追ふと、真実兄弟のために尽す人と、われ等の前に棒に縛りつけた肉を突き出す人とを、混同してしまふであらう。

兄弟よ。私は私の持つてゐる思想の一通りを茲に略述して筆を擱くことにする。

兄弟よ。われ等が望む処は、今資本家及其傀儡が行ひつつある、物質的栄華であつてはならぬ。それを望むは恥づべきことである。われ等の否定するものをわれ等が内心に於て望んでゐることは、全く唾棄すべきことである。

若し物質的栄華を得ることが、われ等の希望する処であるならば、その事は望まないでも行はれてゐるではないか。若しそれは少数者のみであつて万人ではない、と云ふならば、万人がさうなつた時、諸君の望んでゐた物質的栄華はどこを見ても無くなるだらう。

兄弟よ。富や悦楽は相対的なものである。それを追ふのは、自分の影を一生懸命追つ駆けるのと同じことだ。

富を追ふことにわれ等の意志が有るとすれば、われ等は資本家に何を要求し、何の故を以て恨む処があるか。彼はかう答へるであらう。「俺にも未だ充分な富はない」と。

われ等は富を追はないで、貧を追ふために、そこにこそたゞ一つ神の国に入るの道が残されてゐるのである。われ等は決して資本家の富を奪還しようとするのではない。われ等の虔譲なる生命までも彼が拒否しようとすることを詰(なじ)るのである。

資本家諸子よ。労働者も人間である。虔譲なる神の子である。人間として同胞として、等しく日本国民として、彼等に良心を以て対せられよ。諸子が若し彼等を恐れ疎遠して、彼等を生命の不安に突つ込むならば、責任は諸子の方にあるのである。諸子は枯尾花を幽

霊と思つてはならぬ。況して人間を獣と見てはならぬではないか。

○

現世に極楽が来り、地上に天国が齎されるのは何時か。それは地上の人類が眼覚めることによつて即座に出現されるのである。

この考へを空想と嘲り、夢だと笑ふことによつて、人類は自分自身の神の国を、悪魔の祭壇に供へてゐるのである。

この迷蒙を捨ることが一人でも多くなればなるほど、神の国は近づいて来るのである。

釈尊やクリストが地上に現れて神の国の理想を説いてから二千年乃至三千年になる。それにも拘らず人類は些(すこし)も神の国に近づかうとしない、などと遁口上(にげこうじやう)を言つてはならない。仏の慈悲、神の愛を知つたものは、知つただけで、神の国へ近づいてゐるのである。

兄弟よ。悪魔のあらゆる誘惑を斥けて、神の国に進まう。われ等の体の中には、神と悪魔が同居してゐるから、神のみを見なければならぬ。

兄弟よ。神を知り、神の御名(みな)による天国を地上に齎さうではないか。

爾(なんじ)、国(みくに)を来らせ給へ、御心の天に成る如く地にも成らせ給へ。

（大正十年六月）

青空文庫情報

底本：「筑摩現代文学大系　36　葉山嘉樹集」筑摩書房
　　1979（昭和54）年2月25日　初版第一刷発行
※底本は、物を数える際や地名などに用いる「ヶ」（区点番号5-86）を、大振りにつくっています。
入力：大野裕
校正：高橋真也
1999年10月17日公開
2006年2月3日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

工場の窓より

葉山嘉樹

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/